

陀仏います」ととかれたことは、凡夫を化益するために  
は観念的な浄土ではなく、指方立相の浄土でなければならぬと考えたからであらう。

## 善導教学の研究

― 特に凡夫性の強調について

岸 泰 純

善導教学が成立するには、師當時の時代的乃至思想的な背景が重要な問題である。

南北朝は隋によつて統一されたがその隋代には、天台、三論、三階教等が勃興し、後の唐代は支那仏教史上黄金時代とも言われるべきもので、太宗の帰仏外護もあり、浄土教、法相、華嚴、律、禪、密教等の各宗派が独立大成されるに至つたのである。道綽、善導の出世せられた時代即ち隋末唐初には、相次ぐ戦乱や、北周武帝の廢仏事件等により、法滅の相をまざまざと示し、人々に末法到来の自覺を促した。このような中にあつて道綽は安樂集

に、

我末法時中億億衆生起行修道未有一人得者当今末法現  
是五濁惡世、唯有淨土一門可通入路

といひ又

諸仏大慈動歸淨土縱使一形造惡但能鑒意專精常能念仏  
一切諸障自然消除定得往生何不思量都無去心也

とある如く、末法の世に於ける時機に相應した教が道綽  
教学の基調であり、西方願生の思想は、益々民衆の間に  
広まつたのであるが、この道綽の思想は善導によつて受  
け継がれたのである。善導は正しく觀經疏によつて宗を  
立てられたのである。隋代已来、觀經は流行經典の一つ  
として数えられていたようであつて、善導以前に於ても  
淨影寺惠遠、天台智顗、吉祥寺吉藏等によつて各々その  
疏が著わされたのであるが、善導はこれらのいずれにも  
満足されなかつた。このことは善導の觀經疏の末に「今  
欲出此觀經要義楷定古今」とある文によつて明らかであ  
る。では何故諸師の説に満足せず、新たに觀經の要義を  
出して古今を楷定せんと決意されたのであるか。そのこ

とは玄義分に

今逢釈伽仏末法之遺跡弥陀本誓願極楽之要門

といひ、又散喜義に

今説觀經定散二善唯為韋提及仏滅後五濁五苦等一切凡夫証言得生

等とある如く觀經を以て特に末法今日の常没の衆生の為に説かれたものと考えられたからである。

又当時隆盛を極めた撰論学徒は、真諦により訳出せられた無著の「撰大乘論三卷」及び世親の「釈論十五卷」

が次第に流行し、彼らの説くところは、弥陀の身土を高妙なる報身報土となし、従つて凡夫はそこに往生するとは出来ないとし又、觀經、無量寿經等に説くところの凡夫が十念の力を以て即得往生すると説いてゐるのは、弥陀が唯凡夫をして懈怠ならしめざらんがために方便として「即得」と説いたのみであるとし、凡夫の順次往生を不可能としたのである。これは即ち別時意の説であるが、この説に對して善導は玄義分に

論云如人念多宝仏即於無上菩提得不退墮者凡言菩提乃

是仏果之名亦是正報道理成仏之法要須万行円備方乃剋成豈將念仏一行即望成者無有是処

とし、又、撰論の唯願無行説に對しては名号釈を試み願行具足なることを主張されている。即ち玄義分には、撰論諸師が觀經下品下生の十声様仏を引いて別時意となすのは、撰論の文に唯発願と云つて行あることを論じていないからであり、是れ即ち唯願を別時意となすことは明らかであり、凡そ往生するには行願具足しなければならぬ。行願相扶けて所為皆剋することを得べしと言ひ、「今此論中言発願不論有行」とし、従つて唯往生のための因となるのみとするのであつて、これに對する善導の見解は

今此觀經中十声様仏即有十願十行具足云何具足言南無者是歸命亦是發願回向之義言阿弥陀仏者是其行、以斯義故必得往生

とし、従つて觀經の十念往生は別時意の説には非ずとされている。

又觀經の九品觀に對しては、淨影寺慧遠等が九品を以

てすべて聖者となしたのに対し善導は、玄義分に

看此観経定善及三輩上下文意總是仏去世後五濁凡夫但

以過有異致令九品差別

とし、上品三生を大乘の凡夫、中品三生を小乗の凡夫、

下品三生を惡に遇える凡夫となし、九品の往生人を、  
とごとく凡夫であると主張されたのである。ではこの見  
解の相違はどこに存するのだろうか。それは、本経に対  
する観点の相違より来るところで、諸師が観仏為宗の経  
典とみたに對して善導は、観仏念仏一經二宗の説をたて、  
観仏を以て定善十三觀に限り、散善は未來世の散心の凡  
夫のために説かれた仏自開の念仏為宗の教であるとして、  
観仏より除外して考えた所にあるのである。諸師は九品  
各生の機類を判ずるに、証得する果報より眺めたに對し、  
善導は九品往生をする行人の修する因行より眺めて機類  
を判じたから、善導独自の九品觀が出来たのである。

要するに善導は、諸師の観経に對する謬解を正するた  
めに観経疏を著し、曇鸞、道綽二師の教義を繼承し、以  
て観経の真意、随つて浄土教の本義を大成されたのであ

るがその教学の基調は、末法時に於ける為凡の教とい  
うことであり、従つて師の浄土觀に於ても指方立相とい  
う具体的な浄土を構えられたのである。

## 浄土宗法度の研究

巨 山 秀 彦

三十五ヶ条法度といへば、いわずとも江戸時代で、徳  
川幕府によつて作られた法度であることは明らかである。  
それでは、なにゆえこの時代にこのような法度が成立し  
たかということになる。それには種々の事情がからんで  
いたことは事実であるが、こゝではそのいちいちについ  
て述べることは許されないもので、次に大まかではあるが、  
三十五ヶ条法度成立の由来について簡記する。

第一に、徳川幕府施政當時の社会情勢は非常に乱れて  
おり、その混乱した世相を收拾するのにまず僧侶をして  
これに当らしめた。というより、常規を逸した僧侶が行  
動を矯めんがために諸宗を法度により取締り、支配統禦